



大明小学校

校長室から

令和元年11月29日

No. 45

文責 校長 飯久保一男

いじめの認知と対応

10月に文部科学省も山梨県教育委員会も2018年度の学校におけるいじめの認知件数を発表し、全国・山梨県ともに過去最高の認知件数であったことが報道されました。この報道を聞くと、今、世の中の学校には、いじめが横行しているように感じますが、過去最高の認知件数になったのには、次の理由があります。

1 いじめの定義が変わったこと

いじめの定義は何度かの変遷を経て、平成25年9月に出された「いじめ防止対策推進法」によって現在では次のように定められています。

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの

簡単にいうと、言葉や態度や行為によって、いじめられたとその子が感じれば、いじめが行われたと認めるということです。つまり、いじめた側にその気があったかどうかの問題ではなく、いじめられた側の立場で考えるということ。文部科学省によるいじめとされる関係の例です。

体育の時間にバスケットボールの試合をした際、球技が苦手なBはミスをし、Aからミスを責められたり他の同級生の前でばかにされたりし、それによりBはとても嫌な気持ちになった。見かねたCが「それ以上言ったらかわいそうだよ」と言ったところ、Aはそれ以上言うのをやめ、それ以来、BはAから嫌なことをされたり言われたりしていない。その後、Bもだんだんとバスケットボールがうまくなっていき、今では、Aに昼休みにバスケットボールをしようと誘われ、それが楽しみになっている。

この事例のAの行為は、定義に照らすと、いじめに該当するとされています。

2 教職員がいじめの定義に照らしていじめを認知するようにしていること

文部科学省は、いじめの認知件数が多い学校について、教職員の目が行き届いていることのあかしであると考えています。いじめを正確に認知し、しっかりと対応していくことが大切だとしています。反対に、いじめの認知がなかったり、いじめの認知件数が極めて少なかったりする学校は、いじめを見逃していないかと心配しています。いじめの認知件数が増えても保護者や地域の方々が不安に思わないよう、普段から「積極的に認知し（件数は増える）、早期対応を行っている」ことを伝えることも指示しています。つまり、教職員がいじめを見逃さないと、それまでよりも網の目を細かくしたことが、認知件数が増加した理由でもあります。





本校では「いじめ防止基本方針」を定め、毎年全教職員で確認しています。また、PTA総会のときに、資料として全保護者にお渡ししてあります。その中の本校の一つの取り組みとして、子どもたち全員に毎学期、アンケートを実施しています。その中でいじめられたと記入してあるものをいじめと認知し、丁寧に対応し、指導をしてきています。

それだけでなく、子どもたちから訴えのあったもの、また、訴えはないとしても、子どもたちの気になった言動や、トラブルなども、担任はもとより、教職員が見聞きしたものを伝えあい、子どもたちに話を聞きながら指導してきています。

前号にも書きましたが、保護者の皆さんにお願いしたいのは、自分の子どもに限らず、気になるようなことを見聞きした場合は、**担任や学校に情報をお寄せいただきたい**ということです。情報をいただいた場合は、担当の職員で情報を共有し、対応をしていきます。「〇〇さんのお母さんから聞いたのだけど…」などと、子どもたちやその保護者に、**情報をいただいた方の名前を明かすことは絶対にいたしません**。いじめの未然防止、早期発見のため、よろしくお願ひします。

<写真…24時間子どもSOSダイヤル> 内閣府・警察庁・法務省・文部科学省・厚生労働省が、子どもたちが全国どこからでも、いつでもいじめやその他のSOSをより簡単に相談することができるよう全都道府県に設置したダイヤルです。平成27年・28年度のポスターの作成には、趣旨に賛同した乃木坂46が、無償でその肖像を提供しています。

イライラしているとか、ムカムカしているという人がいると、なぜその人がそのような気持ちになるのかよくわかる。その原因は、相手のアラばかり探しているからだ。

「あいつのあそこが気に入らない」

「あいつのあそこがムカつく」

「なぜあの人はあんなんだろう。もっと〇〇すればいいのに」(中略)

相手の欠点を言いたてることによって、ひょっとすると、自分を正当化しているのかもしれない。誰かに言うことによって、

「そうなのよ。あの人は〇〇なのよね。私も前からそう思っていたの。ほんとにいやな人ね。あの人は…」といったぐあいに同調してもらい、自分の正当性を認めてもらおうとしているのかもしれない。

人のアラ探しをしていい気分になることはまずない。

どうせ生きていくのに不愉快な世界に何も自分を引き込むことはなかろう。

極力楽しい気分で生きていきたいものだ。(中略)

親や先生が子どもをよく伸ばすには、

長所をできるだけたくさん見つけ、それをほめ励ましてやるのが大切だといわれている。

このことは親や先生だけの問題ではなく、

子どもどうしてあれ、大人どうしてあれ、まったく同じように通用することだ。

お互いにアラを探し、それを言いたてて何になる。

互いに成長をpushえつかけ合い、つぶし合っているにすぎない。

アラを探す心を相手の長所をひとつでも探す方へ傾けよう。

学ぶことも多いはずだ。